

1. 学校名 対象 (学年、人数) 信州大学教育学部附属長野中学校 1 学年 205 名

2. 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動名 「持続可能な社会の実現に向けて」

(2) 目 標

① 現代社会における諸問題に関する調査を通して、持続可能な社会の実現には、人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解する。

② 持続可能な社会を実現するための問題を、自己との関わりで捉える。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

① 構成概念

多様性 (多種多様な現象が起きていること)

公平性 (一人ひとりを大切に)

相互性 (関わりあっている)

連携性 (互いに連携・協力すること)

有限性 (限りがある)

責任制 (責任を持って)

その他 ()

② 育成する資質・能力

批判的に考える力

他者と協力する力

未来像を予測して計画を立てる力

つながりを尊重する態度

多面的・総合的に考える力

進んで参加する態度

コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs

医療・福祉・教育グループ：3・4

食・農業グループ：1・2

平和グループ：5・10・16

環境グループ：7・13・14・15

経済・技術グループ：8・9

(5) 探求課題・活動実践の概要

① 10 年後の社会について考えよう。

・教育・医療・AI・環境・エネルギー・農業 など。

② SDGs の観点で考えよう。

・グループによる調査活動

③ SDGs の活動を知ろう。「白馬SDGsプログラムでの体験」

・白馬村の小水力発電事業 ・白馬村×サーキュラーエコノミー

・農業からSDGsを考える (コンポスト)

④ 「問い」に対する追究を深めよう。(ヒューマン・ウィーク)

3. 流れ (指導計画の概略)

4 月 総合的な学習の流れを確認し、10 年後の社会の課題は何か考える。

5 月 10 年後の社会の課題をSDGs の観点と照らし合わせ、問題を焦点化していく。

6 月 調査活動→情報の整理→まとめ・発表→新たな「問い」の設定。

7 月 ヒューマン・ウィーク (4 日間の総合的な学習の時間) で、グループごとに体験・調査。

9 月 学びのまとめ、学年発表会

10 月 学習発表会での発表

2 月 信州ESD・SDGs 成果発表会での発表

4. 効果・反応・所感

生徒は、それぞれが「人類の発展と生物の絶滅に関係はあるのか。」「戦争はなぜ始まるのか。」「AI が何でもできる時代になるのか。」「地球温暖化を抑えるために私たちができることは何か。」などの問いをもって活動を始め、調査活動や体験学習を通して、自分たちが今できることをSDGs の項目に沿って考えることができた。

5. 指導方法・体制の工夫 (協力者や資源)

【講演会・座談会】○TOYOTA-U グループ 森田さん ○八千代エンジニアリング 池田さん

○長野市役所環境部 北澤さん ○長野市教育委員会 市川先生 ○信州大学工学部 香山教授

○信州大学経済学部 美甘教授 ○内科医 平野さん ○JICA 北澤さん

【体験・見学】○戸隠「花伝舎」 ○松代大本営 ○マルコメ株式会社 ○水力発電所

○長野駅のユニバーサルデザイン調べ ○長野駅でのウクライナへの募金活動

